

# 訪問看護ステーション便り

問 訪問看護ステーション  
TEL 32-2416



No.51

少子超高齢化における訪問看護の使命は「持病の重症化の予防」と「在宅看取り」です。前回は「持病の重症化の予防」についてお知らせしました。今回は、もう一つの使命、「在宅看取り」についてお伝えします。

## 「看取り」という言葉にどんなイメージをお持ちですか

看取りとはもともと、「病人のそばにいて世話をする」、「死期まで見守る」、「看病する」という、患者を介護する行為そのものを表す言葉でした。最近では、人生の最期(臨死期)における看取りを単に「看取り」と言い表すことが多くなっています。

お出かけ講座などで、地域の皆さんに看取りについて伺うと、ほとんどの方が「人生最期のその時(臨死の瞬間)を見守ること」と認識されていました。

訪問看護では、看取りを、臨死の瞬間だけではなく、前の段階も含めたプロセスとして捉え、「残された時間を、最期までどのように暮らしたいか」に寄り添います。

### =在宅看取りの必須条件=

- ① 本人が「自宅で最期を迎える」  
という意思があること
- ② 家族が納得し、受容できていること
- ③ 在宅医や訪問看護などの  
医療チームの体制が整うこと



### 訪問看護の実際

#### 「どのように暮らしたいか」希望をうかがい、叶えられるように支えます

たとえば…

- ・息子に家業を伝授したい
- ・アトリエで画材や絵画に囲まれて過ごしたい
- ・一人暮しても家で過ごしたい
- ・家で母親として子どもたちのそばに居たい
- ・痛いことや苦しい治療はせずに自然に過ごしたい

#### 24時間365日ご家族を支えます

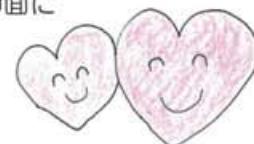
ご家族の「症状が急変した時の対応が不安」という心配に対して

変化する体調に対して、今、からだの中で起こっていることを説明し、次に起こりうる症状を伝えることで「予期できる=急変ではない」と理解し、落ち着いて対応できるようになります。



#### 体調の変化への対応

- ・苦しさや痛みなどの不快症状は主治医と連携し、少しでも穏やかに過ごせるよう努めます
- ・不安など、精神面に寄り添います



#### 連携



ご本人を支えてい  
るご家族や親戚・  
サービス担当者と連  
絡を密に取ります。